地歴公民(世界史)　早稲田大学　法学部　1/3

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

マーク式・論述式（250 字～300 字）

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問５題は昨年度までと同じ。マーク式の設問は 34 問で変わらず。論述式の設問の制限字数は，今年度も 250～300 字で分量に変化なし。難易度は，総じて昨年度と変わらず。

出題の特徴や昨年との変更点

マーク式設問の過半を占める文章正誤判定問題は，昨年度の 24 問から減少して今年度は 20 問，並び替えの選択問題は昨年度と同じく２問であった。正誤の判断基準は，因果関係や年号・年代の誤りを判断させるものよりも，単なる用語の誤りが中心になる傾向が続き，用語のレベルも易しくなりつつある。その分，本腰を入れて論述問題の対策をしてほしいとの大学側の意図のあらわれだろうか。現代史からの出題が比較的少ないことが法学部の特徴だが，今年度は第二次世界大戦後の知識を求める出題があった。

その他トピックス

歴史総合は試験範囲に含まれていないが，昨年度に続いて近現代の日本の動向について問われた。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	マーク式	河川から見た 中国史(古代～明)	設問３．文帝と煬帝の二人の事績について考えること。 設問４．Ｂ安史の乱→Ａ両税法の関係がわかれば解答は容易である。 設問７．③は正文だが，「海上交易について」という題意から考えたとき，海上交易について何も述べておらず，出題として疑問が残る。	やや易
Ⅱ	マーク式	オリエント史 (古代)	設問１．空欄Ｂについては，実質的な地図問題と言える。 設問６．イ．ザマの戦いは紀元前３世紀末にローマがハンニバルを破った戦いである。 設問９．ドーラヴィーラーはやや細かい。なおモエ（ヘ）ンジョ＝ダーロはインダス川下流のシンド地方にあり，パンジャーブ地方にある都市遺跡はハラッパーである。	やや易
Ⅲ	マーク式	主権国家体制 (中世～近世)	設問１．４．イタリア戦争時のイギリスの王朝はテューダー朝だが，ジェームズ１世はステュアート朝の王である。 設問４．２・４は組み合わせが誤り。１は，組み合わせ自体は誤っていないが，フィリップ４世はカペー朝の君主なので適当ではない。 設問５．３．ギルドの廃止は国民議会時代の事績。 設問７．４．ホッブズは昨年度も出題。「万人の万人に対する闘争」があり解きやすい。なお１はマキァヴェリ，２はフィルマー，３はグロティウスの主張である。	やや易

© 河合塾　2025 年

Ⅳ	マーク式	太平洋地域の歴史 (近世～現代)	設問１. ニ. 17 世紀にタスマン，18 世紀にクックが探検を行ったと覚えておきたい。ロ. 王立協会は 17 世紀半ばのチャールズ２世時代に設立された。ハ. ベーリングはロシアのピョートル１世の命で北太平洋地域を探検した。 設問２. ハが正文であることは基本事項である。イ・ロ. オーストラリアは 1901 年に自治領となったが，それより早く自治領となったのはカナダのみである。また白豪主義は第二次世界大戦後の 1970 年代に撤廃され，オーストラリアは多文化主義に移行した。 設問３. やや難問。ロ. ニュージーランドはポリネシアに属する。ハ. 白人女性の参政権は 19 世紀末に認められた。世界初の女性参政権付与として問われる内容である。ニ. 第一次世界大戦でニュージーランドはオーストラリアとともに参戦し，イギリス本国を支援した。両国の連合軍はアンザック〔ANZAC〕と通称され，毎年 4 月 25 日がアンザック・デーとして両国で休日となっている。 設問４. ハ. バグダード鉄道は敷設権の獲得で売却はしていない。ニ. 青島は「建設」のほうが妥当な表現か。 設問５. 歴史総合寄りの出題である。ハ. 日本はマレー半島とシンガポールを占領し，シンガポールを東南アジア支配の拠点としたが，抗日運動を受けた。 設問６. 消去法でも解答は可能である。イ・ハは 1954 年当時に独立しておらず，SEATO はベトナムの共産化を阻止するために結成されているのでニも当てはまらない。 設問８. 消去法で対応できるが，１. ニューカレドニアはやや細かい。	標準
Ⅴ	論述式	インド・パキスタンにおける宗教間の対立と融和 (近世～1940 年頃)	インド・パキスタン地域における支配政策が，宗教間の対立・融和にどのような影響を与えたかを問う論述問題。昨年度と同様，指定語句をヒントに要点を絞り込んだうえで書かないと，字数が厳しい。 ムガル帝国時代については，「ジズヤ」を用いてアクバルとアウラングゼーブの政策の変化とその影響について触れればよいので書きやすい。 イギリス植民地時代については，まず東インド会社の支配が「インド大反乱」の原因となり，宗教を超えて反英で結びついたこと，「ベンガル分割令」については反英化した国民会議派に対してムスリムが親英的な全インド＝ムスリム連盟の結成したことについて述べればよく，ここは比較的書きやすい。「新インド統治法」(1935)については，制定にいたる経緯として，ガンディーの民族運動を述べることは予想しやすいが，制定後の動向はやや難しい。問題に指定された年代が「1940 年頃まで」となっているが，1940 年に全インド＝ムスリム連盟の指導者ジンナーがムスリム国家の建国を目指す宣言をおこなっており，ここを論述の着地点としたい。ムスリム連盟が分離を志向するようになった背景として，新インド統治法で認められた州自治の選挙で国民会議派が勢力を拡大し，ムスリム連盟が不振だったことについて述べること。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2025 年

地歴公民(世界史)　早稲田大学　法学部　3/3

＜学習対策＞

時代・分野では，前近代史からの出題が中心だが，現代史から多く出題される年もあるので，早大を志望する以上，全時代・全分野の網羅的学習は必須である。マーク式問題は，選択肢が一見難解に見えるものの，実は基本的な事項で誤りを判断できるパターンがほとんどである。細かい事項ばかりに注意を向けるのではなく，基本事項の確実な習得が重要であることを意識しておこう。また論述問題（250字～300字）はボリュームがあるため，論述力を伸ばすうえで添削指導を受けることが望ましい。

© 河合塾　2025 年